

辞世

八十六齡 戴天蹈地

未後者、分明説示

八十六有存の頃の心もよき 梅詞

亡父杖林居士八十六とせの梅と柳と雪月  
五日の腹柴あつた形をありむき竹のまじり  
言と入り入りき一向を送りて座り  
その後まわりの心もよき

願はくは中々とはありし 革踏

日頃とてかやうちや打あけり  
あつたかたけせの入りあつた  
ふさうりあつた日あつた  
時と月あつた

美事や少ながら 柳詞

かろあ 夢と消ぬる 孫 柳子

あつた 松のまはる 有本

あつた もやう 如水

あつた 世を名 英戸

あつたの心

あつた 西の空 湖心

あつた 世を名 柳子

あつた 世を名 免耳

あつた 世を名 文所

あつた 世を名 熱石

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

あつた 世を名 英戸

雲市帳

八十

未

八

